

1 地域づくりとまちづくり

地域づくりは生活課題と直結したものが多く、日々の暮らしの快適さとも言えるものである。高齢化と価値観の多様化、権利義務の所在、そして昔はこうだったという所からくる自治会や地域への意識のずれ・希薄化等々世代間の意識の差も大きくなっている。そこで、行政と地域・市民との役割分担・連携の視点から以下伺う。

(1) 生活諸課題

- ① 道路区画線修繕の現況・進捗及び追加要望等の検討について
- ② 信号機のない道路の交差点での見通しの確保について
- ③ 危険な薄暮時のライトオンの取り組みの現状と対策について

(2) 協働の取り組み

市行政は良く「森と木」に例えられる。どちらも欠かすことが出来ない役割と責任がある。今、地域の大きな課題の一つに雑草の駆除がある。地域の環境美化と自治会活動との狭間で、自治会役員始め住民も苦慮しているのが実情である。これらを念頭に以下伺う。これまで生活道路や水路等の作業は、比較的地域の活動として行われてきていたと思うが、高齢化や価値観の変容で大変厳しくなっている。都市部と周辺部との違いもあるが除草要望も多くあるかと思う。そこで、

- ① 車歩道分離帯や河川、水路等の除草要望への対応はどうか。また、道路や水路等の雑草対策についての市の基本的な方針・基準を伺う。
- ② 自治会連合会や地域づくり協議会での雑草駆除・除草についての協議や検討・要望はこれまでにされていたか。
- ③ 環境美化推進や隣近所の顔の見えるコミュニティづくりの一環として、一括交付金で交付する適当な時期が来ていると思うが検討はどうか。

(3) 案内標識

- ① 公共施設や庁舎等案内板等の点検・修繕について、現状と今後の取り組みは。
- ② 交差点サインボード等の点検・修繕について、現状と今後の取り組みは。

2 みらいへの取り組み

(1) 県内自治体地域力指標について

磐田市は地域カフロー指標で県内11位、全国393位、地域カストック指標では県内13位、全国282位と、公益財団法人中部圏社会経済研究所が6月25日に発表、静岡新聞には8月16日朝刊1面に掲載された。この指標は、限界集落や消滅可能性都市の主張と表裏の関係であり、補完する意味合いを持ったものとして見えなくはない。

指標の地域カフローでは、人を引き付ける魅力、地域カストックでは、世代間の往来や性別に関係なく役割を持った社会の実現に視点をおいている。順位算定に使用したデータは117項目と聞いており、数字だけではじき出したようである。が、今後のまちづくり・みらいづくりへの参考データにはなるのではないかと思う。

生活基盤・教育・コミュニティ・住民福祉・女性の活躍の5分野での評価の順位であるが、以下2点について伺う。

- ① この順位についての率直な感想を伺う。
- ② この結果から参考となること、若しくは今後の政策の中に活かしていきたい分野があればどこか。それはどんな要因からか。

(2) 自然災害（台風・地震等）での停電対策

- ① 鉄塔（送電線）倒壊への対策や電線の切断、ジャンパー線対策について、中部電力との協議及び連携はどうか。

(3) 地方文化とイノベーション

磐田市や周辺地域、また静岡県は多種多彩な食材の宝庫である。そこで磐田市を軸に食材と食文化の発信と最新のイノベーションを駆使した食の祭典の開催を提案したい。人は食べる時・食べている時が至上の幸福を感じるようである。観光地でも知らない土地でも食の魅力は他を圧倒する。無国籍の食文化のみならず、そこにスマホの活用やI o T、ドローン、A I 等最新技術を用いたこの祭典は、どのイベントにも対抗できる能力・魅力がある。食べることと利便性の追求は限りがないエンドレスである。研究・検討の価値は大いにあると思うがいかがか。

(4) 市内工業団地の現況と対応

- ① 市内各工業団地での未利用地はどの程度あるか。規模別で伺う。
- ② 五十子農工地区の未利用地の活用の検討、例えば園芸作物や水耕栽培、発電施設、未来投資型企業、中小企業支援対策の一助等の活用ができないか伺う。また農工法の改正では、未利用地の活用の優先や対象業種の廃止、6次産業化等地域内発型産業の導入推進とある。一部地域で、対象業種が従前と変わらないといった場合もあると聞くが磐田市はどうか。